

## 論文：水銀説を裏付ける一貫した疫学的証拠

マーク・ガイアー博士（MD）とデヴィッド・ガイアーさんはワクチン被害報告のデータベースを使った調査で、水銀と自閉症に相関があったという学术论文を過去にいくつか発表しています。ただし、実際に被害が起きた例のごく一部しか報告されていないデータベースであることが報告の限界でした。今回はさらに詳しい調査のためにCDC が築いたデータベースの使用を許可され、それを使った調査で、さまざまな神経発達の不全に相関が見られたという結果を加えたものです。

Vaccine Adverse Event Reporting System [ワクチン被害報告システム]、通称VAERS は一般に公開されているデータベースで、これまでも予防接種の安全性を検証するために使われてきましたが、報告された例しか記録されていません。しかも、実際に副作用が見られても報告されるのは5 パーセント程度と推測されており、このデータベースを使った調査を決定的な証拠と見ることには困難がありました。それでも、水銀の入っているDPT 三種混合ワクチンと、水銀の入っていないDPT 三種混合ワクチンを同時期に接種した集団を比較して、自閉症の報告率に有意な差がありました。

もっと詳しいデータベースは、連邦政府の機関である Center for Disease Control and Prevention [疾病予防管理局]、通称CDC が築いた Vaccine Safety Datalink [ワクチン安全性データリンク]、通称VSD です。このデータベースはいくつかの大規模な医療機関のデータが丸ごと入っており、CDC の内部でのみ利用されて来ました。ガイアー博士たちはしつこく利用申請を行ない、下院議員のデイヴ・ウェルドン医学博士の協力も得てやっと利用を許可されたのですが、その結果を発表することがなかなか認められませんでした。

今回ようやく発表できたのは、乳児期のワクチンによる水銀の摂取量と、ADD や発語の遅れを含む、さまざまな神経発達不全の症状全般に相関が見られるというものです。